

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※ 受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-100	高等学校	地理歴史科	地理A	
※ 発行者の 番号・略号	※ 教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		
35 清水	地 A 311	高等学校 現代地理A 新訂版		

1 編修の基本方針

本書は、教育基本法第2条に示された教育の目標を達成するため、以下の基本方針に基づき編修しました。

① 基礎的・基本的内容を確実に身につけ、生徒が主体的に考える力を培う教科書

▶ 全編を通して、現代世界の課題をわかりやすく、また、生徒の日常生活と関連づけて注目させることができるよう記述しました。そして、それらの課題に対して、生徒がみずから考え、追究し、行動できる態度を育むことができるよう配慮しました。また、表現や叙述は生徒の思考力・読解力を考慮し、平明で簡潔を心がけました。

② 現代世界を読み解くための知識と方法を身につけさせる教科書 ●●●●●●●●

▶ 地球環境問題や民族問題、宗教対立などの社会問題、あるいは自然災害など、これらの起きる原因やしくみを知り、それらを解決、あるいは回避するためにどうすればよいかを考えさせる記述を心がけました。そしてこれらの課題に主体的に取り組んでいく姿勢を培うよう配慮しました。未来を拓き、持続可能な社会を形成することが、生徒の日常生活とも深いつながりをもつことを理解させ、興味・関心を高めるために、コラムなどでは時事的な話題なども多く取り上げました。

③ 身近な地域に興味・関心をもたせ、 地域の課題に積極的に取り組んでいける力を培う教科書 ●●●●

▶ 身近な地域に関心をもつことが、我が国や郷土を愛する態度を養うことの第一歩であると考え、第2編の「生活圏の諸課題と地理的考察」では、地形図の読図を重視して、3つの章にまたがって関連づけながら「地図を知ろう、地域を探ろう」という特設ページを配置しました。また、生徒みずからが読図を行って、防災や地域調査に関心をもてるような課題を配置しました。

2 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察		
第1章 地球儀や地図からとらえる 現代世界	地球儀や世界地図を通して、世界を大観できる知識と教養を身につけることができるよう配慮しました(第1号)。	6～11 ページ
第2章 世界の諸地域の 暮らしと文化	幅広い知識を身につけられるよう世界の諸地域を大観できる項目を各節の最初に挿入しました。本文記述は現代世界をより深く理解でき、社会に対する洞察力を養えるよう留意しました(第1号)。	30～31 ページ, 40～41 ページ, 50～51 ページ, 58～59 ページ, 66～67 ページ, 78～79 ページ, 88～89 ページ, 96～97 ページ
	世界の人びとが、それぞれの自然環境に適した産業を営み、生産力を高める努力をしてきたことを記述しました(第2号)	34～35 ページ, 44～45 ページ, 60～61 ページ, 70～71 ページ, 82～83 ページ, 98～99 ページ
	世界で起こる紛争や民族問題のようすなどに触れ、その原因を考察させるようにしました(第3号)。	26～29 ページ, 37 ページ, 54～55 ページ, 63 ページ, 74～75 ページ, 81 ページ, 88～89 ページ, 97 ページ, 120～121 ページ, 130～132 ページ

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第3章 地球的課題の地理的考察	地球環境問題、エネルギー問題など現代世界における諸課題を取り扱いながら、その考察の視点を学習のなかで見いだせるように構成しました（第1号）。	102～111ページ
	循環型社会へ向けた動きについて、日本国内だけでなく、ヨーロッパの例を見ながら自分たちの生活について考察できるようにしました（第3号）。	114～117ページ
	地球環境問題や世界の食料問題などを扱うなかで、国際協力の必要性について触れ、私たちは何ができるのかを考察できるようにしました（第4号）。	102～105ページ、 122～125ページ
第2編 生活圏の諸課題と地理的考察		
第1章 日常生活と結びついた地図	地形図の読図を通して、身近な地域である郷土について関心をもたせるとともに、日本の特色についても大まかに理解できるようにしました（第5号）。	136～141ページ
第2章 自然環境と防災	日本の自然環境の特色を理解し、自然災害の起こるしくみなどについて知るとともに、自然災害から身を守るための記述を加えました（第4号）。	144～147ページ、 150～165ページ
第3章 身近な地域の 地理的課題と地域調査	身近な地域に関心をもつことが、日本の国土や郷土を愛する態度を養うことにつながると考え、地形図の読図作業を多く掲載するとともに、生徒目線で身近な地域を調査する視点を提示しました（第5号）。	166～178ページ

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ▶本文はつとめて平易・簡明としながら、重要なポイントは確実におさえられるようにしました。また、本文の叙述に際しては、重要な語句にはゴシック体を用いて学習上の注意を喚起しました。そして活字にはユニバーサルデザイン・フォントを使用し、できる限り多くの生徒にとって読み取りやすい教科書となるよう配慮しました。図版・地図などは読み取りやすい配色を心がけました。
- ▶日本や郷土の歴史と文化、伝統に対する生徒の親近感を深め、国際協調の精神を養う契機ともなることを期待して、口絵には、世界各地の世界遺産や各地の独特の文化がわかる写真などを大きく掲載し、後ろ見返しには世界地図を掲げました。



▲ 口絵 - 1



▲ 口絵 - 5



▲ 口絵 - 9

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-100	高等学校	地理歴史科	地理A	
※発行者の 番号・略号	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
35 清水	地 A 311	高等学校 現代地理A 新訂版		

1 編修上特に意を用いた点や特色

① 授業のしやすさに配慮した構成

- ▶ 本文は、見開き2ページで1つのテーマを設定し、学習目標を掲げ、生徒の理解を助けるうえで、学習内容が明確になるように配慮しました。また、図表・資料などを活用しながら授業が展開できるように図番号を付すなど、本文と図版との関連を重視しました。
- ▶ 本文中には、本文記述の関連事項の参照ページや欧文表記などを入れ、学習が有機的に展開できるよう工夫しました。さらに脚注では、本文の補完的な解説を充実させ、学習効果が高まる工夫をしました。
- ▶ 教科書で多くのページを割いている第1編第2章の「世界の諸地域の暮らしと文化」では、学習の利便を図るため、世界の諸地域を8つに区分し、それぞれ最初の項目は、その地域の自然環境や歴史的背景などが大観できる内容にし、地域全体がわかる地図を掲載しました。
- ▶ 視覚による理解を重んじ、地図や写真・統計資料などを豊富に活用しました。また、読み取りやすい作図を心がけました。

4 節 中央・西アジア、北アフリカの人びとの暮らし

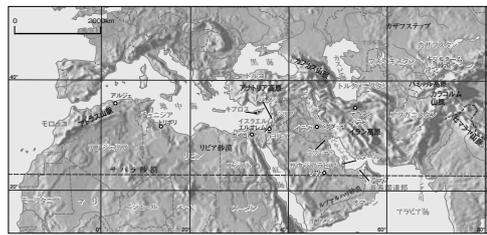


図 中央・西アジア、北アフリカの地形図

アラブの人びとの住む自然環境を知り、ムスリムの生活を学ぼう。

▶1 降水量の多い地域に水源があって、乾燥地域に流れ込む川。

▶2 イランではカペト、アフガニスタン、中国西部などではカヘス、北アフリカではフォガラとよんでいる。

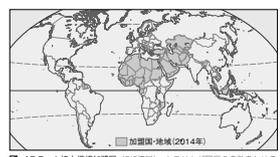


図 イスラーム勢力圏増加地図 (OC資料) ムスリムが国民の多数を占める国々にて掲載される。1971年に発行し、加筆修正・地図は57におよぶ。本部はサウジアラビアのジッダ。

1 中央・西アジア、北アフリカの自然と宗教

けわしい地形と広がる乾燥地域 北アフリカから西アジア・中央アジアにかけては、アルプス=ヒマラヤ造山帯に属するアトラス山脈、カフカス山脈、イラン高原、バミール高原、カラコルム山脈などの高くけわしい山脈や高原が分布する。カラコルム山脈には標高8,000m以上の山が連なり、極地をのぞけば世界最大の水河が形成されている。この地域は、地中海沿岸と山岳・高原地帯をのぞき、大半が年降水量500mm未満の乾燥気候である。北回帰線周辺にはサハラ砂漠やアラビア砂漠が広がり、ユーラシア大陸の中央部にもキジルクーム砂漠が分布する。降水にたよる農耕が不可能な砂漠気候の地域では、古くからオアシスが重要な人間生活の場であった。オアシスは、ティグリス川やユーフラテス川、ナイル川のような外來河川の流域や湧水のあるところに分布する。そこでは伝統的な地下水路などによって灌漑され、ナツメヤシや小麦などを栽培するオアシス農業が営まれている。

50 第1編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察

▲ p.50

② 生徒の興味・関心を喚起する多様な内容のコラム

▶本文の内容を深めるために、さまざまな視点からの話題を取り上げたコラム、作業学習や調べ学習を取り入れた「トライ」、現代世界の動きをわかりやすく解説した「いまがわかる」というコラムを掲載し、生徒が興味・関心をもてるよう配慮しました。

コラム一覧	
<コラム>	
・	日本にも導入されていたサマータイム (p.11)
・	キリバスの日付変更線 (p.11)
・	朝鮮の「大いなる文字」ハングル (p.31)
・	インドにカレー料理はない? (p.43)
・	東アジアの華人社会 (p.47)
・	国をもてない民族、クルド人 (p.55)
・	エネルギーハブをめざすトルコ人 (p.57)
・	アフリカの土地争奪 (p.61)
・	ツワネってどこ? (p.65)
・	レソト、スワジランドって独立国? (p.65)
・	キリスト教の影響の大きい文化 (p.67)
・	ポーランドの女性労働者 (p.73)
・	切手からみるカナダ (p.81)
・	再生した都市ピッツバーグ (p.87)
・	アンデス山脈の暮らし (p.89)
・	僻地の人びとの生活 (p.99)
・	ペットボトルの歴史 (p.115)
・	タイの自然保護と都市のゾウ (p.127)
・	日本の過疎過密問題のあらたな側面 (p.129)
<いまがわかる>	
・	世界の水不足問題 (p.25)
・	スンニ派とシーア派 (p.27)

▼ p.57

トルコは、ロシア、カスピ海、中東からの石油や天然ガスをヨーロッパへ運ぶ主要なルートとして、供給と消費の両側面を持つ重要な役割を担っている。

トルコは、ロシア、カスピ海、中東からの石油や天然ガスをヨーロッパへ運ぶ主要なルートとして、供給と消費の両側面を持つ重要な役割を担っている。また、トルコは、中東からの石油や天然ガスをヨーロッパへ運ぶ主要なルートとして、供給と消費の両側面を持つ重要な役割を担っている。

エネルギーハブをめざすトルコ

トルコは、ロシア、カスピ海、中東からの石油や天然ガスをヨーロッパへ運ぶ主要なルートとして、供給と消費の両側面を持つ重要な役割を担っている。また、トルコは、中東からの石油や天然ガスをヨーロッパへ運ぶ主要なルートとして、供給と消費の両側面を持つ重要な役割を担っている。

▼ p.65

ツワネってどこ?

ツワネは、ボツワナの首都である。ボツワナは、南アフリカ共和国と国境を接している。ツワネは、南アフリカ共和国と国境を接している。

レソト、スワジランドって独立国?

レソトは、南アフリカ共和国と国境を接している。スワジランドは、南アフリカ共和国と国境を接している。

▼ p.25

地下水とその利用

地下水は、地表の下に存在する。地下水は、地表の下に存在する。地下水は、地表の下に存在する。

世界の水不足問題

世界の多くの地域で水不足の問題が生じている。水不足の問題は、世界の多くの地域で生じている。

③ 地形図の作業や読図などから、地域の課題へアプローチする特設ページ ●●●●

▶ 第2編の「生活圏の諸課題と地理的考察」では、地形図の作業や読図などの特設ページである「地図を知ろう，地域を探ろう」を配置し，防災や地域の課題について多面的，多角的に考察できるように配慮しました。

地図を知ろう，地域を探ろう	
1	地形図からさまざまなものを読み取ってみよう！ (p.139～141)
2	ハザードマップはどうしてできたの？ (p.143～144)
3	新旧の地形図から土地の改変を探ろう！ (p.152～153)
4	富士山が噴火したら？ (p.158～159)
5	水害に対する工夫を読み取ろう (p.162～163)
6	街の変化を読み取ってみよう！ (p.172～173)
7	空中写真から地域を探ろう！ (p.174～175)

▼ p.158～159

地図を知ろう，地域を探ろう **4**

富士山が噴火したら？

■富士山の火山防災
 富士山は，日本の最高峰であるだけでなく，その美しい山容は日本の象徴的なシンボルでもある。また，夏の登山シーズンをはじめ，周辺には観光施設が集中することから，1年を通して多くの人が訪れる国内有数の観光スポットとなっている。

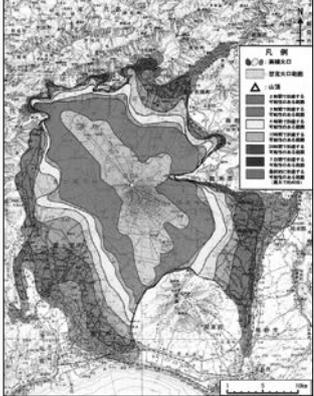
しかし，富士山はこれまで噴火をくり返していた活火山であり，将来も噴火がおこるものと考えられている。たとえば『竹取物語』の最後には噴煙を上げる富士山が描かれるなど，昔は，いまのおだやかな姿とはまったく異なる山であった。富士山は，江戸時代の1707年の宝永噴火を最後に噴火はおきていないものの，2000年には地下でマグマの活動を示す特殊な地震の群発が観測され，噴火時の危機管理が求められている。宝永噴火の際には，約2週間噴火が続き，富士山から噴出した火山灰が江戸（いまの東京）をおおったことが記録されている。もし現在，同様の降灰があれば，大規模な交通障害により首都圏の都市機能が麻痺することは確実である。たとえば，空中に浮遊した火山灰が航空機に吸いこまれると，ジェットエンジンが停止するなどの深刻な問題も発生する。

■富士山のハザードマップ
 富士山の噴火によって，さまざまな現象がおこるものと考えられ，その現象ごとに災害予測範囲が示されている。たとえば，図3は宝永噴火と同じ規模の噴火を想定した降灰可能性マップである。それによると，富士山を中心に降灰の可能性がcm単位の降灰深で示され，周辺から神奈川県・東京都・埼玉県・千葉県までの範囲がふくまれていることがわかる。ただし，このマップは条件のちがう予測を重ねあわせて，降灰する可能性の大きさを示したので，実際の噴火では，このマップのとおり降灰するとはかぎらないことに注意しなければならない。実際に噴火がはじまった際には，当日の風向きなどを考え，臨機応変な避難対策をとる必要がある。

図2の溶岩流可能性マップは，溶岩流の到達する可能性のある範囲

■富士山の溶岩流可能性マップ（富士山火山防災協議会）

を24時間以内の時間ごとに，また，7日目と最終到達域とともに色分けしたものである。しかし，このマップも異なる噴火位置から流れ出た複数の溶岩流を重ねあわせて予測範囲が示されているので，実際に噴火がおきても，この範囲すべてに溶岩流が広がるわけではない。噴火がどこでおきるかで溶岩流の流れる範囲も異なるため，噴火地点にあわせて避難対策が必要となる。



■富士山の降灰可能性マップ（富士山火山防災協議会）



2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 現代世界の特色と 諸課題の地理的考察	(1) 現代社会の特色と 諸課題の地理的考察		計 58
第1章 地球儀や地図からとらえる 現代世界	ア 地球儀や地図からとらえる 現代世界	6～15 ページ, 後見返し	5
第2章 世界の諸地域の暮らしと文化	イ 世界の生活・文化の多様性	16～101 ページ, 前見返し, 後見返し, 口絵1～17	40
1節 自然環境と人びとの暮らし			
2節 東アジアの人びとの暮らし			
3節 東南・南アジアの人びとの暮らし			
4節 中央・西アジア, 北アフリカの 人びとの暮らし			
5節 中・南アフリカの人びとの暮らし			
6節 ヨーロッパとロシアの 人びとの暮らし			
7節 北アメリカの人びとの暮らし			
8節 中央・南アメリカの 人びとの暮らし			
9節 オセアニアの人びとの暮らし			
第3章 地球的課題の地理的考察	ウ 地球的課題の地理的考察	102～132 ページ	13
1節 地球環境問題			
2節 資源・エネルギー問題			
3節 増える人口・移動する人びと			
4節 世界の食料問題			
5節 世界の居住・都市問題			
6節 国際協力			
第2編 生活圏の諸課題と 地理的考察	(2) 生活圏の諸課題の 地理的考察		計 12
第1章 日常生活と結びついた地図	ア 日常生活と結び付いた地図	134～143 ページ	2
第2章 自然環境と防災	イ 自然環境と防災	144～165 ページ	7
第3章 身近な地域の地理的課題と 地域調査	ウ 生活圏の地理的な諸課題と 地域調査	166～178 ページ	3
		計	70

常用漢字以外の使用漢字一覧表

(数字は初出ページを示す)

楯	嶺	礫	坦	褶	曾	嘴	涸	灌	漑	魯	鍾	鑽
16	17	18	18	18	19	19	21	24	24	24	25	25

隋	圳	牽	遼	焚	埠	沐	醬	疆	阿	蔓	饉	崗
31	32	33	34	38	39	42	43	57	57	59	70	78

僻	曝	梱	僑	苫	笠	媚	燐	琉	窪	薩	痺	栗
99	100	115	120	136	144	156	156	157	157	157	158	161

綾	磐	柏
170	171	171